



毎年1月14日には「尖閣諸島開拓の日」の式典が行われる

しかしながら1969年の国連アジア極東経済委員会が沿岸鉱物資源の調査報告で石油埋蔵の可能性が指摘されると、突如として中国が領有権を主張しはじめ、現在は中国公船による尖閣諸島周辺海域における領海接続水域への侵入等の活動を常態化させており、一方で尖閣諸島の領有の正当性を国際社会と国内向けにアピールする目的で、中国気象局と国家海洋局が尖閣諸島を中国福建省の一地域として2012年9月11日より尖閣諸島の気象情報を一般に公表している。

当市は、2010年に1月14日を尖閣諸島開拓の日と定める条例を制定した。同条例第3条（市の責務）で条例制定の趣旨にふさわしい取り組みを推進するため、必要な施策を講ずるよう努めるものとする。よって当市議会は、尖閣諸島周辺海域を航行する漁船や船舶の安全運航、国民世論の啓発を図る上で気象庁をはじめ、日本放送協会（NHK）及び報道機関各社による気象情報に尖閣諸島を含めることを求める。

**観光振興対策特別委員会提出議案**

観光振興対策特別委員会（箕底用一委員長）は、昨年（箕底用一委員長）は、昨年からクルーズ船や空港国際ターミナルの入国管理の手続きに関して現地視察等を行い、CIQ業務について関係省庁へ要請するため、同委員会において協議を重ね、意見書の提出となりました。

**インバウンド観光推進のため受入体制の充実強化を求める意見書**

平成25年3月に南ぬ島石垣

空港が開港し、石垣市を訪れる観光入域客数も堅調に伸び、平成28年の観光入域客数は、過去最高の124万人を突破し、外国人観光入域客数も19万3千人余と国際線の就航やクルーズ船の寄港回数増等により毎年過去最高を更新しております。

その中であってCIQ（税関・出入国審査・検疫）業務は、国の安全を図り水際対策の重要な役割を果たすとともに外国人観光客が最初に接する日本人として、厳格さを維持しつつも迅速かつ円滑に職務にあたらなければならない役割を担っております。しかしながら、当市におけるCIQ職員の人員が少数であるため、入国審査は非常に深刻な状況にあり、平成28年4月には、台湾から石垣港に寄港したクルーズ船の旅客である台湾籍の男性が、違法薬物を所持し、税関職員によって発見されるといふ事件があり、また5月には、石垣港へ寄港停泊したマレーシア船籍のヨット

トから国内過去最大の覚醒剤597キロが石垣港出港後那覇で押収されるという密輸未遂事件が発生するなど、改めて水際対策の重要性を確認したと



寄港したクルーズ船から島内観光へ向かう外国人旅客

ころであります。

今後も国際線の増便やクルーズ船の寄港回数増加が予定されており、受入体制の充実、強化が強く求められておりますが、本市の現状は、CIQ職員不足問題に加えクルーズ船着岸近くにCIQ業務を行える施設の未整備等、課題が山積しております。

よって、当市議会は、年々増加する外国人観光客への対応とインバウンド観光推進のため、CIQ職員の増員と麻薬探知犬の配置及び施設整備等受入体制の更なる充実強化を強く要請いたします。

○提出先 内閣総理大臣、内閣官房長官、法務大臣、国土交通大臣、財務大臣、総務大臣、沖縄及び北方対策担当大臣

（結果）全会一致で可決

◆ 特別委員会開催状況（1月～3月）

	開催日	調査事項
建設	1月24日	・新庁舎建設に関する事業経過について
事発注	1月26日	・平成28年度中学校デジタル教科書購入入札に関する件（陳情）
	3月3日	・平成28年度中学校デジタル教科書購入入札に関する件（陳情）
興対策	1月25日	・入国管理の手続き等視察後の意見書の取りまとめについて
	3月6日	・インバウンド観光の受入体制強化を求める意見書について
本条例	2月2日	・議会基本条例について